



new 風しんばん

No. 5

平成 24 年 8 月発行

浜松城公園周辺のまちづくり研究成果発表

2012. 3. 25 (日) 開催

知る 来る 楽しむ 観光まちづくり

—若手市民がアイデア発信—

「浜松の歴史・文化の象徴であり、市民の憩いの場でもある浜松城・浜松城公園を活かして、まちの活性化につながるまちづくり方策を考えたい！」そんな思いを持った若手市民が浜松まちづくり推進センターの呼びかけにより集まり、8 か月に渡り「浜松城公園周辺まちづくり研究会」にてまち歩きやワークショップを行い議論しました。この日はその研究会の成果として、現在浜松市が進めている浜松城公園歴史ゾーン整備計画などを基にまちづくりのアイデア提案を発表しました。

キーワードは…

『家康』と『出世城』

活躍するのは…

『家康くん』と『家康48』



研究会では、「多くの人に来て、来た人が楽しんでもらうためには？」をテーマとし、歴史ゾーン整備計画に盛り込まれている「ビジターセンター」に着目しました。浜松の歴史や文化を大事にすると共に、浜松城公園の入口であり、公園の顔でもあるビジターセンターを「公園とまちと人をつなぐ場」と捉え、必ず寄りたくなくなる様々な仕組み・仕掛けを考えました。「家康くん」の常駐&記念写真サービス、公園に関連するスタッフを「家康48(フォーティエイト)」と称して周知する、出世くじ(宝くじ)などを企画し出世の Powerspot として売り出す、家康御膳などの企画商品やグッズの制作・販売、寄り道マップを作成し周辺のお店や施設の情報を提供する、ツイッターなどの IT 技術やデジタルネットワークを活用して広く情報発信する…等。また、

「浜松城」のバス停を作り家康くんラッピングバス「く・る・る」がビジターセンターに横付けする、駐車場は大型バスを優先し自家用車は周辺の民間駐車場とタイアップするなどの交通問題についても考えました。この他、ビジターセンターは浜松城の景観に配慮して 1 階建てとすること、「鎧掛けの松」「浜松の松」にちなんで松を植樹することなども提案しました。

またハード・ソフトの両面で多角的な施策を、まずはできる事から始めて、周辺地域や時代の変化に合わせて段階的に整備・取組みを進めていくことを提案しました。

会場の参加者からは、「若手市民による提案は非常に面白い。若者の自由な意見や行動力に期待したい。」などの意見が出されました。

みんなで盛り上げるのじゃ！



<基調講演・話題提供>



神谷昌志さん(歴史研究家)
明治初期の廃城後の浜松城公園の成り立ちについてお話していただきました。



田代剛さん(㈱東海トラベル)
まちやお城の歴史を学んだり、公園や周辺を「ノルディックウォーク」により歩いて楽しむ等、あらたな観光まちづくりについて紹介していただきました。

7月2日 まちづくりアイデアを提案書としてまとめ、浜松市に提出しました。これらのひとつひとつの提案が実現されるかどうかは未定ですが、今後も若手市民として積極的にまちづくりに関わり、まちの活性化に貢献していきたい旨を報告しました。



浜松まち歩き

「新川・橋ものがたり」～まちを知り、まちを楽しむ～

2012. 3. 24 (土) 開催

普段何気なく見ているまちの中、あらためて見ると実は知らないことがいっぱいあります。そんなまちの魅力を再発見しながらまちを歩き、まちを楽しみ、まちを好きになることがまちづくりの第一歩となります。

そんな視点のひとつとして、今回は浜松のまちなかを流れる新川に架かる橋にスポットを当てました。浜松城公園近くの「下池川橋」から馬込川合流地点の「浅田橋」までの 27 個の橋を、その名前や由来を確認しながら歩く「まち歩きツアー」を開催しました。



浜松駅北口に集合して、まずは循環バス「く・る・る」に乗り込みます。一日乗車券は 200 円。何度も乗り降りができてお得です！



「東照宮入口」で降りて、マップを片手にまち歩きスタート！一つ目の橋は「下池川橋」です。28 年竣工、町名に由来する橋です。



親柱に刻まれている橋の名称や竣工年月などをひとつひとつ確認しながら下流へと歩いていきます。



いろんな色や形の橋があります。水の流れも深いところ・浅いところなど、変化があって楽しめます。



遠鉄高架下は暗渠になっています。イベント開催時には多くの人に来て楽しんでいきます。



番外編「誕生橋」。今では親柱のみが残っています。徳川秀忠公がこの付近で産まれたといわれることに由来しています。



大正時代に常盤町の後藤さんが木橋を作り、京都の五条橋と同じ音でイメージが良いことから、頭文字をとって「後常橋」と名付けられました。



橋や川の流れだけではなく、お花や街路樹などを見て楽しむこともできます。



お昼ご飯は、べんがら横丁で。おいしい食事をするのもまちの楽しみのひとつですね。



駅南の堤防には楽しいペインティングが施されています。水量も増えて水鳥の姿が多く見られます。



最近架け替えた「四郎五郎橋」は、当初の建設時に尽力した「杉浦五良四郎」さんに由来。いつの間にか順序が逆になり、文字も「郎」に統一されました。



今日のゴール、馬込川との合流地点で記念撮影。この後、く・る・る南ループに乗って浜松駅まで戻りました。



スマッペとは・・・？

S・・・ステキ

M・・・三ヶ日

@・・・情報発信

P・・・プロジェクト

é・・・いなかっぺで
あることの誇り

浜名湖の北岸に位置し、風光明媚な景勝地でもある三ヶ日町は、三ヶ日みかんブランドで全国的にも有名です。三ヶ日の未来を明るく元気にしたいという熱い気持ちを持ったメンバーが、仕事や世代の枠を超えて結集したのが「SM@Pé(スマッペ:ステキみっかび発信プロジェクト)」です。自分たちが今できることは何かを考え、地域の若手事業者が中心になって幅広く行っているまちづくり活動・情報発信について紹介します。

■ 『自分たちの三ヶ日は自分たちでつくる！』

「20年後、30年後の三ヶ日はどうなっているんだろう？」そんな疑問とも不安とも思える気持ちを皆が持っていました。でも、あるとき気付いたのです。「今の三ヶ日は誰がつくったんだろう・・・？」みかんの産地、猪鼻湖の自然を生かした観光スポット、桜がきれいな公園…。これらは自然にできたものじゃない。誰かがつくったんだ！誰かが強い意志と時間をかけて、この「三ヶ日」をつくってきたんだ…。と。

それなら、「これからの三ヶ日は自分たちでつくればいいじゃないか？」そんな思いをもった若者が集まってできた組織、それが「SM@Pé(スマッペ)」です。SM@Péは、業種・業態、世代を超えて20～30代の若者が集まり、各種団体と連携を図りながら幅広い活動を行っています。若者だけでなく、農協、商工会、観光協会の職員や、50～70代の地元の名士も「厳老院」として助言や指導をいただいています。(ホームページ・設立趣旨より抜粋)

■ みかんトイレ掃除隊

尾奈の国道301号線沿いにある「みかんトイレ」は、みかんをモチーフにした公衆トイレです。このトイレが区の計画により取り壊し



予定であることを知ったSM@Péメンバーが、何とか存続させたいと約3,000人の署名を集めて区に懇願しました。人口約15,000人の町の1/5もの町民が署名したことになります。

観光協会も交えて協議した結果、電気・水道・浄化槽は市負担、消耗品は観光協会負担、清掃はスマッペが行うことで存続することが決定されました。2010年8月からSM@Péメンバーが週1回の清掃活動をしています。まちの観光シンボルでもあった「みかんトイレ」を守りたいという熱い想いが行政を動かしました。

■ とことん、みかんでまちおこし

「日本一のみかんの里」を目指して、特産品のみかんを生かして、新たな特産品を企画・開発・販売していくこともSM@Péの活動のひとつです。2010年に三ヶ日みかんを使ったオリジナル料理を募集した「第1回三ヶ日G-1グランプリ」の最優秀賞に輝いた、当時小学5年生のレシピを基にし「みかんの皮 de ふりかけ」を商品化しました。

そのほかにも規格外みかんを皮ごとペースト化したみかんペーストを活用した「みかんいなりずし」や「みかんわらび餅」なども企画・商品化しています。

■ 短編映画で情報発信

SM@Péや地元農協、商工会の若者が中心となり、三ヶ日町を舞台にした短編映画制作も行っています。撮影はプロの監督やスタッフが行う本格的なものですが、撮影場所や小道具の準備、食事や宿泊の調達、エキストラの手配などはすべて地元住民が担当しています。風光明媚な景勝地よりも、地元の住民が普段生活するまちや地域の人と人とのつながりをテーマにして地域の魅力を発信しているのが特徴的です。これまでに3本の映画を制作して各映画祭などに出演しています。

■ ゴミを集めておもてなし

地元の老舗和菓子屋さんの女将さんが何気なく発した「ゴミちょうだい」の一言がきっかけとなり、SM@Péが「53MOライダー(ごみもらいだー)」を結成しました。地域のウォーキングイベントなどの際には、自転車に乗って「ゴミありませんか？」と集めて回る、「53MOライダー」が疾走し、究極のおもてなし活動を展開しています。



催しのご案内

防災まちづくりフォーラム

H24. 9. 15(土)開催

ーみんなで考え、みんなで取組む 地震・津波に強いまちづくりー

東日本大震災の経験を踏まえ、「地震・津波に強いこれからのまちづくりの姿とは?」「防災まちづくりに取組むにあたって合意形成の進め方は?」など、浜松市での防災まちづくりのあり方、市民・企業・行政それぞれが取るべき対策とその進め方などについて、参加者も交えて意見交換を行います。



■ 内容

- ・話題提供「浜松市の津波対策」
山名裕氏(浜松市危機管理監)
- ・講演「津波・地震に負けないこれからの減災まちづくり」
土肥英生氏(財都市防災研究所 主任研究員)
- ・講演「みんなで進める防災まちづくりと合意形成」
矢嶋宏光氏(政策研究大学院大学客員教授)
- ・参加者と意見交換
コーディネーター:石川岳男(静岡大学客員教授、
財浜松まちづくり公社まちづくりアドバイザー)

【日時】

平成24年9月15日(土) 13:30~16:30

【場所】

浜松市福祉交流センター 2階 大会議室

【主催】

(財)浜松まちづくり公社

【後援】

浜松市、(福)浜松市社会福祉協議会、
(NPO)日本都市計画家協会静岡支部

【問合せ】

浜松まちづくり推進センター

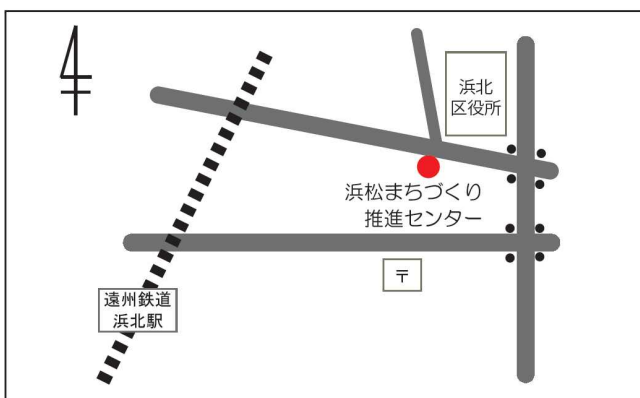
TEL 053-457-2614

※ 参加無料。予約は必要ありませんので、
直接会場へお越しください。

地域のまちづくり相談を受け付けています

皆さんが住むまちで「気になること」や「こうなったらいいな」と思っていることはありませんか?例えば、「落ち着いた住環境を守りたい」「きれいな街並みにしたい」「休耕地を地域で活用したい」「地域の活性化をしたい」など、地域のまちづくりに関してのご相談に応じます。

まずは、お気軽にご相談ください。



浜松まちづくり推進センター通信「New 風しんぶん」

発行: 浜松まちづくり推進センター(平成24年8月)

〒434-0033

浜松市浜北区西美園 27-6

(財)浜松まちづくり公社 浜北事務所内

TEL: 053-457-2614

FAX: 053-452-9620

Eメール: suisin@hamamatsu-machi.jp

URL: <http://www.hamamatsu-machi.jp/center/>